マンスリーレポート　No.19

2016 年 10 月 31 日

久留米大学医学部医学教育研究センター
https://csme.kurume-u.ac.jp/
神代龍吉、安達洋祐、柏木孝仁、北川周子

１．アクティブラーニングと協同学習の導入計画

アクティブラーニングは種々の方略があり[1)]、簡単な振り返りシート、コメントシートから協同学習、Learning through discussion（LTD)、PBL、TBL など複雑なものまであるが、教員にとって始めやすいものとして別紙[2)]のような方略を紹介する。簡単なものから日々の授業に取り入れていただくよう提案する。

1）高田和生．日本内科学会雑誌 2015, 104: 2498-2507.
2）溝上慎一．アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換．2014, p.71.（表 3－2）東信堂, 東京.

２．シラバスの検証

今年度はシラバスのスタイル、指定教科書の厳選（１冊まで)、準備学習（予習・復習）の記載またはサーバへのアップを推奨した。来年度はモデル・コア・カリキュラムの行動目標をシラバスに明示することを願う。各行動目標について学生が自習し、振り返ることができるように学修ノートを作成するか、あるいは Mahara（e-ラーニング）を利用したポートフォリオを作成できる環境整備を提案する。一例として平成 22 年度改訂版の冒頭の部分を提示する。

一般目標：医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶ。 到達目標： 1）医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。 2）生と死に関わる倫理的問題を列挙できる。 3）医の倫理と生命倫理に関する規範、Hippocrates（ヒポクラテス）の誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等を概説できる。

単なる多肢選択式問題への対策にとどまらず、到達目標の各項目について概説・列挙・記載できるようになることを学生に求めるもので、調べる、書く、説明するなどの能動的学修になるとともに、教員は学修成果として評価の一部にすることができる。

３．6 年生の成績解析

5 年次 1 月と 6 年次 8 月のテコム模擬試験の成績を比較し、成績上位群（上から 70%）は偏差値（全国）の変動は小さいが、成績下位（下から 30%）は偏差値が低下する傾向があることが分かった（10 月 11 日教務委員会へ報告済み)。

４．研究成果

柏木を筆頭とする論文が久留米医学会雑誌に掲載された。柏木孝仁、安達洋祐、北川周子、神代龍吉.共用試験 CBT の成績から学生個人の医師国家試験の合否を予測できるか？．久留米医学会雑誌.　2016, 79: 169-173.

５．模擬患者養成

・10 月 1 日に教育 1 号館 1411 教室にて SP 連絡会を開催した。参加者に本学医学部の模擬患者であることを証明する ID カードを配布した。

・例年のごとく、宮崎大学医学部の共用試験 OSCE（12 月 3 日）へ、本学の SP さん 5 名を派遣することになった。

６．学外活動

・神代と安達が九州北部四大学医学教育連絡会議へ出席（10 月 4 日、福岡市）

・神代が医学教育学会理事会へ出席（10 月 14 日、東京）

・神代が厚生労働省日本語診療能力調査へ出席（10 月 15、16 日、東京)。

・安達が西日本地区公立私立医科大学・医学部教務連絡協議会へ出席（10 月 21 日、奈良市)。

・神代が国立大学医学部長会議の卒業時モデルコアコンピテンシーワーキンググループ会議へ出席（10 月 25 日、東京)。

以上